

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		にしはら太陽の子		公表日		令和7年 1月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		更衣室をクールダウン室として使用できるようにしている	今以上増えると狭くなるので改善が必要	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		音・光の調節や対策が出来ている。構造化に合わせリフォームされている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日、利用終了後に消毒・清掃を行っている	以前の建物と比べ、施設感があるので、家庭的な雰囲気を出していく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			テーブルのみで仕切られた空間となっており、今後はパーティションを活用した取り組みも必要である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		日々の朝礼・支援会議等で実施している。児童のイメージに捉われず、出来るだけチャレンジさせている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			保護者からの意見が少ないので、自由に記載していただくよう声かけを行い、信頼関係を築いていく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			朝礼・ミーティング・支援会議等で意見を出す環境を設けているが、もっと自由に発言できるよう工夫が必要	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		本部とも協議を行い、外部評価を実施していく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		日程・人員上受講可能な研修はより多く受講させている。特に強度行動障害実践者研修を重要視している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		イメージや前例にとらわれない、児童ひとりひとりの視点に立ったサービス計画書を作成している	日々変わる児童の状況に合わせ、もっと細かい期間でのサービス計画作成を検討していきたい	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別の支援ノートに、放課後等デイサービス計画を記載し、それを踏まえた支援を行っている。	プライバシーに配慮したうえで、もっと見やすい書式を支援ノートに掲載する工夫が今後必要である	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		本人の意思・特性を主体とした支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		当日のリーダーや担当を変え、個別支援や集団支援が重ならないようにしている	プログラムの種類を増やし、利用児や職員が意欲をもって活動できるようにしていく	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		平日の午後より支援会議、毎月上旬にミーティングを行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			支援終了後には時間の許す限り、内容の振り返りを行っている。困難な場合はSNS等を活用しているが、プライバシーの観点から注意が必要である
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別に記録を取り、5領域を意識した活動を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		個別課題は複数枚用意し、その中でやりたいものを選んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加し、状況に応じて女性職員を同席させている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			年間行事・月別行事予定は常に職員で共有し、受け入れ時点での児童の様子（皮膚の状況・腫れや風邪症状等）を把握している
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		学校を卒業する時だけでなく、実習時での情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		年度末より、スキルアップ研修に参加していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		隣接する児童センターを利用している	平日の時間帯だと時間が限られるので、土曜日や長期休みを活用できないか検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後、ペアレントトレーニング等の勉強会を検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時・担当者会議等において説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		児童視点ばかりではなく、保護者の視点にたった助言を行っている。様々なツールを用いた支援を行っている	送迎時では時間に限りがあるので、土曜・休日等を利用して相談に応じていく体制が必要である

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	グループ内の関連事業所にて、共同企画して設けた。	同グループ内で交流会を設けたが、参加人数や規模の問題など十分とは言えず、今後も回数を増やすべきか別の方法を模索すべきか検討する
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月デイ便りを発行している	今後はSNSで活動概要を発信するための準備を行っていく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	シュレッダーを使用し、画像の取り扱いも保護者に確認し、管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域との関りが少ないので、併設する児童センターに来園される保護者との関りを増やしていく必要がある
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルは策定しているが、家族への周知が徹底されていないので、今後その方法を検討・実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		非常災害時（主に地震）を想定しての訓練は行っているが、高台に避難する想定も加えていく必要がある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	新規契約時及び、服薬内容変更時に確認している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	現在、食物アレルギーを持つ利用児はいないが、今後該当者がいた場合、医師の指示書に基づく対応を行う。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットとはどこまでを指すのか、直接支援も当然ながら書類上に生じたヒヤリハットも検証している	今後、強度行動障害の児童を想定して、支援体制を検討していく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	グループ内で研修の機会を確保している。ストレスチェック等、情報を収集して活用している	グループ外の情報を得るため、公的な研修にも参加を検討していく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	身体拘束は行っていない	グループ内で身体拘束廃止委員会を招集し、情報収集に努める	